

研究・研修報告書



令和2年1月17日

小牧市議会議長 様

会派名 新政こまき  
代表者氏名 小沢 国大

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

諸岡 英実

2 日程

令和2年1月10日（金）

3 研究・研修名

「教育と福祉の先進国フィンランドから学ぶ これからの日本の教育と福祉のあり方」

- ・教育先進国フィンランドから学ぶ教育政策【フィンランド】
- ・家庭教育支援から教育改革は切り込め【日本】

4 主催者

地方議員研究会

5 会場

新大阪丸ビル別館（大阪府大阪市東淀川区東中島 1-18-22）

6 受講の目的

教育先進国フィンランドから学校教育や図書館の在り方、公教育のコンセプトを学び、新図書館やこども未来館の在り方を模索するため。

## 7 主な内容

- ・教育先進国フィンランドから学ぶ教育政策【フィンランド】

教育先進国フィンランドの教育政策について解説があった。日本とフィンランドは環境も文化も違うが、北欧型の教育政策の在り方から学ぶべき点は多い。特に子どもに対する教育スタンスでは、子どもたちの自立を主眼に置いた対応で、子どもの人権を尊重した教育的配慮がなされている。且つ高学力、誰一人として取りこぼさない教育環境が整備されていることは、これからの時代に合わせた教育を検討していくにあたり重要なケースとして参考となるセミナーであった。

- ・家庭教育支援から教育改革は切り込め【日本】

家庭教育支援について、親及び保護者が、多様化する子育て環境で孤独を抱えながら子育ての悩みを外に打ち明けられない・窓口が足りないなど知恵にリーチできない状況にある。こういった親のニーズの変化に地域社会や行政が新しい家庭教育支援モデルを打ち出している自治体もある。先進的事例から地域課題に即した家庭教育支援体制の構築について解説を伺った。

## 8 所感・提言・課題等

こどもたちの教育環境整備について学んだだけではなく、現在進行中の小牧市新図書館建設や、(仮称)こども未来館建設に向けて、ソフト面について考える良いきっかけとなった。

『「ヒト」こそが国の最大の財産である。』という確固たる決意を愚直に教育政策に反映していることがうかがえた。フィンランドでは「国民の誰もが公平な教育機会を得られるべきである」という理念がしっかりと根付いており、教材はもちろん給食費や交通費、鉛筆や消しゴム、防音ヘッドホンに至るまで、公教育を受ける際にかかる費用は一切が無償となっている。こういったことが教育格差や、貧困による悪循環や連鎖を生じさせない対策となっている。

また、日本でいうスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーのような役割を果たす中間支援団体職員も正規公務員として勤務しており、支援の役割・役職は様々。子どもたちへのきめ細かいサポート体制が整っており、教員の質の維持と共に多忙化解消が図られている。教員の資質向上と処遇改善は健全な教師と生徒（及び保護者）の信頼関係の構築を助けるものとなり、教員同士のいじめやモンスターペアレント

等の問題を解決することに繋がるものと考える。

子どもたちや教員を取り巻く教育環境について、表面的な対応対策だけではなく、就学前教育や、家庭教育、不登校や家庭環境（保護者）の問題等の課題について「公教育がどうあるべきか。」「こどもたちを地域でどのように育てていくべきか。」「教員の労働環境をどのように守っていくべきか。」こういった理念や目標に係る議論から抜本的に行う必要があるのではないか。小牧市においても国の幼児教育無償化の流れを汲み保育園・認定こども園・幼稚園の無償化が始まっており、R2年度からは高校生の入院費助成が始まる。子どもたちの育ちを全力で応援する為、より良い制度と共に行政サービスの質の向上に向け、大変参考となるセミナーであった。